

共催：東ソー株式会社／栄研化学株式会社

心不全パンデミックに直面する日本におけるBNP測定の有用性

津浦 正史

東ソー株式会社 バイオサイエンス事業部

超高齢社会を迎えた日本においては心不全患者が増加する「心不全パンデミック」に直面しており、心不全診療の重要性がさらに高まっている。日本心不全学会より「血中BNPやNT-proBNPを用いた心不全診療に関するステートメント2023年改訂版」が公開されたことは記憶に新しい。

主な変更点を以下に転記する。

- 1) 心不全の可能性のあるBNPのカットオフ値の変更：BNP値40pg/mLを35pg/mLとした。
- 2) BNP値100pg/mLに対応するNT-proBNPカットオフ値の変更：NT-proBNP値400pg/mLを300pg/mLとした。
- 3) 心不全診断や循環器専門医への紹介基準の変更：BNP100／NT-proBNP400 (pg/mL) からBNP35／NT-proBNP125 (pg/mL) とした。

ここでは、心不全症状を認めない段階の「前心不全 ($35 \leq \text{BNP} < 100$)」という状態についての提言があり、心不全の発症予防、早期の治療介入のためBNP測定のさらなる貢献が期待されている。本セミナーではBNP測定の有用性について改めて紹介する。